

船橋市グループの取組み

— 水産多面的機能発揮対策 —

1. 地域の概要

当グループが活動する船橋市は、千葉県の北西部、東京湾の最奥部に位置する。中核市に指定されており、人口は約61万人、面積は85.64km²。9路線35駅が通り、充実した住環境を誇るとともに、京浜コンビナートの一角であり、食品製造業が盛んである。最近では、市の非公認キャラクター「ふなっしー」が市のPRに一役買っている。また、船橋沖は三番瀬と呼ばれる東京湾最奥部の干潟が広がり、江戸時代には徳川家の御菜浦（おさいのうら）として、将軍家に魚介類を献上するなど、古くから地域を代表する漁業が行われてきた。現在も良好な漁場となっている。

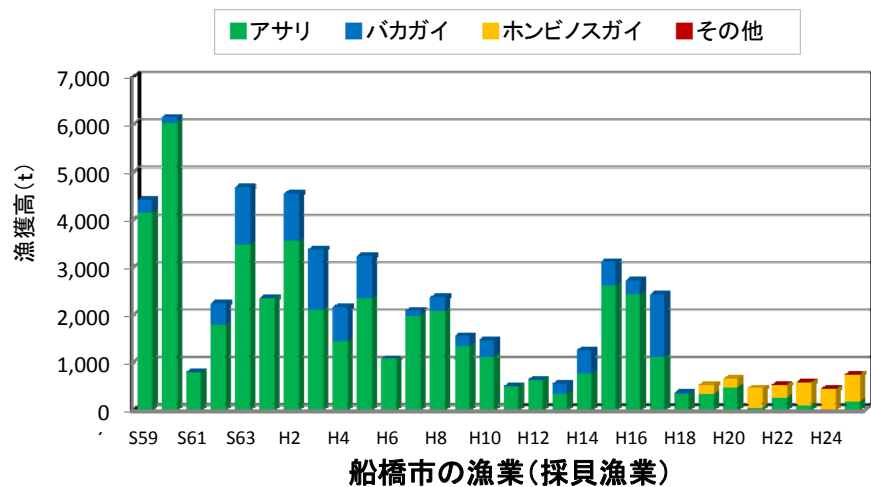
船橋市の主な漁業は、三番瀬における海苔養殖とアサリやホンビノスガイなどの採貝漁業、その沖合の漁場ではカレイ、スズキ等を漁獲する小型機船底引き網漁業、スズキ、イワシ等を漁獲するまき網漁業等である。

船橋市



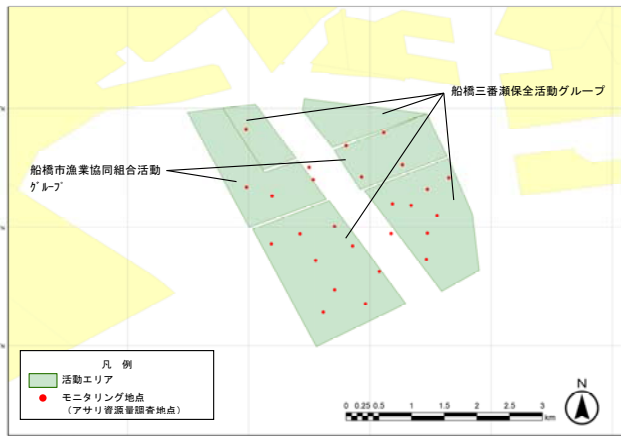
2. 地域(干潟)の現状と課題

千葉北部地区（三番瀬を中心としたエリア）はアサリの漁獲量減少が著しく、1980年代には3,000～10,000トン前後だったが、近年は500t以下にまで落ち込んでいる。当地区のアサリ漁獲量減少の要因として、冬季減耗（波浪・水鳥の被害など）や漁場環境悪化（底質の泥化や固化など）による稚貝発生量の減少、河川出水時における江戸川放水路からの泥濁水の放水、そして東京湾奥部で発生する貧酸素水（青潮）の発生などがあげられる。中でも、冬季風浪によるアサリの散逸、青潮や出水などの一過性の環境悪化による大量へい死、ハジログモ（スズガモ）やツメタガイによる被害は深刻な問題となっている。



3. グループ(活動組織)の概要

上記課題に対応するため、平成22年度から環境・生態系保全対策、平成25年度からは水産多面的機能発揮対策に取り組んでいる。船橋市漁協の組合員と地域住民を中心として、2つの活動組織を設立し、「船橋市グループ」として地域一体となった活動を展開している。



干潟・浅場の保全活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	実施組織
客土		←	→									全組織
耕耘			←	→								船橋三番瀬活動グループ
機能低下を招く生物の除去(腹足類)				←	→							船橋市漁協活動グループ
モニタリング	←	→										全組織
機能発揮のための生物移植							←	→				船橋市漁協活動グループ
教育と啓発の場の提供									←	→		全組織
漁村の伝統文化、食文化等の伝承機会の提供								←	→			船橋三番瀬活動グループ

※機能低下を招く生物の除去のうち、(腹足類)は主にツメタガイを中心に除去している。

4. グループ(活動組織)の活動状況

2011年の津波でアサリ漁場の柔らかい表層砂が流出し固い地盤になったためにアサリ稚貝の着底が悪くなったと考えられたので、2012年、2013年に漁場耕耘を行った。2014年にはアサリ稚貝の発生が良かったが、活動グループでは耕耘による効果がでたものと考えている。



耕耘(底曳き船のケタで海底を耕す)



客土(H26年度は約512m³を投入)



機能低下を招く生物の除去(腹足類)
H26年度はツメタガイ約56kg回収



教育と啓発の場の提供
(漁業体験)



教育と啓発の場の提供
(乾海苔つくり体験)



漁村の伝統文化の継承
(みなとまちの町歩き)

【モニタリング】

年6回(2ヶ月に1回)、26箇所の定点において、アサリ資源量のモニタリングを実施。大捲籠に2mmの網を張って砂ごとアサリを採集し、砂をふるって残ったものを7段階の篩でふるい分け、各ふるいに残ったアサリ等を計数。

図中の青潮では稚貝よりも成貝(殻長27mm以上)の死亡率が高くなるため、青潮発生後の漁獲量は大きく低下する。青潮はアサリ漁業に大きな被害を与える。

